

## 今週の為替相場見通し(2020年7月27日)

総括表		先週の値動き			今週の予想レンジ
		注	レンジ	終値	
米ドル	(円)		105.68 ~ 107.57	106.14	105.00 ~ 107.00
ユーロ	(ドル)		1.1400 ~ 1.1658	1.1655	1.1500 ~ 1.1800
(1ユーロ=)	(円)		122.27 ~ 124.28	123.70	120.00 ~ 125.00
英ポンド	(ドル)		1.2519 ~ 1.2803	1.2795	1.2700 ~ 1.3000
(1英ポンド=)	(円)	*	134.35 ~ 136.63	135.79	134.70 ~ 137.50
豪ドル	(ドル)		0.6973 ~ 0.7184	0.7106	0.6970 ~ 0.7220
(1豪ドル=)	(円)	*	74.82 ~ 76.87	75.41	74.00 ~ 76.50

(データ)先週の値動きに関して、注の欄で無印の項目はみずほ銀行、\*印の項目はブルームバーグ。

## 1. 米ドル

市場営業部 為替営業第二チーム 上遠野 暁洋

(1)今週の予想レンジ: 105.00 ~ 107.00 円

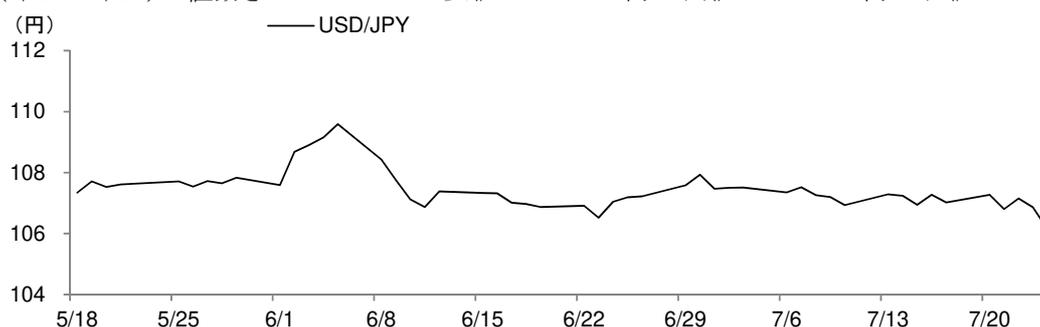
(2)ポイント【先週までの回顧と今週の見通し】

先週のドル/円相場は週初堅調推移も週末にかけて下落。週明けの20日に107円前半でオープンしたドル/円は、仲値にかけて107円半ばまで上昇する場面があったもののその後は戻し、週初107円前半での小動きとなった。しかし21日、協議は難航していた復興基金の創設にEUが合意したことで、ユーロ圏の経済回復期待からユーロ買いドル売りが強まったほか、株式市場および原油市場の堅調な動きにリスクセンチメントも改善し、それまでのリスクオフのドル買いが巻き戻される流れの中、ドル/円も22日にかけて106円後半まで下落。しかしその後、米国が知的財産権をめぐる問題で、在ヒューストン中国総領事館を閉鎖するとの報道、また中国もこれに報復措置の検討で応じたことで米中関係が一段と悪化するとの懸念が再燃。ドル/円は下落が一服し107円前半まで戻す展開となった。23日は東京連休入りとなり薄商いの中、アジア時間は概ね107円前半で方向感に乏しい動きとなるも、海外時間に米新規失業保険申請件数の市場予想比悪い結果や、米金利低下が意識され106円後半までじりじりと下落。また、24日には中国が成都の米総領事館の閉鎖を要請し、追加閉鎖をも示唆したことで改めて米中対立の激化が意識され、米中株式市場も下げ幅を広げる中、ドル/円は一時105円後半(3月16日以来約4ヶ月ぶりの円高ドル安水準)まで下落した。もっとも週末引けにかけては小幅に反発し106円前半での越週となった。

今週のドル/円相場は小幅下落を予想。米中関係を巡っては、先週両国が自国にある双方の総領事館を閉鎖する事態にまで発展しており、今週も同問題への警戒感からリスクオフ色の濃い展開がメインシナリオとなる。下値ではリスクオフのドル買いも想定されドル/円は引き続き一進一退の動きがベースとなりそうだが、足元の米金利低下が意識されるほか、米上院共和党の新型コロナ対策法基本案に給与減税が含まれていないことを嫌気したドル売り材料は目先ドル/円の重石となるだろう。もっとも米金融政策を巡っては今週28日(火)・29日(水)に米FOMCおよびパウエルFRB議長の会見を控えており、それまでは金利・為替ともに方向感が出づらいう展開が見込まれる。その他今週の主な経済指標として、30日(木)に米4~6月期GDP(速報値)、31日(金)に中7月製造業PMI、米7月個人所得支出、7月ミシガン大消費者態度指数確報値等が予定されている。

(3)先週までの相場の推移

先週(7/20~7/24)の値動き: 安値 105.68 円 高値 107.57 円 終値 106.14 円



## 2. ユーロ

市場営業部 為替営業第二チーム 尾身 友花

(1) 今週の予想レンジ: 1.1500 ~ 1.1800 120.00 ~ 125.00 円

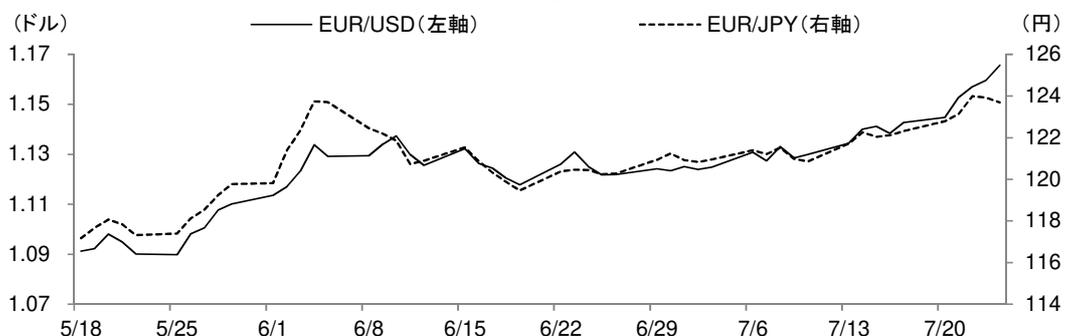
### (2) ポイント【先週までの回顧と今週の見通し】

先週のユーロ/ドル相場は、年初来高値を更新する展開。週初20日、1.14台半ばでオープンしたユーロ/ドルはEU復興基金の合意に向けて、ルッテ・オランダ首相が補助金と融資の比率に関して依然慎重な見方を示したことが嫌気され、一時週安値の1.1400まで下落した。その後は新型コロナウイルスのワクチン開発で良好な結果が得られたとの報道を受け、リスク志向から1.14台半ばまで次第に値を戻した。その間、EU復興基金に関するヘッドラインが交錯したが為替への影響は限定的であった。21日は、EU復興基金が返済義務のない補助金3,900億ユーロを含む計7,500億ユーロで合意との報道を受けて値を上げる展開。局所的に売りが入ることがあったものの、後半にかけて1.15を上抜けて上昇した。22日も復興基金の合意によるEUR買いが継続し、一時21か月ぶりに1.1601まで上値を伸ばす場面も見られた。23日は、一時EUR買いが一巡し、1.15台半ば付近まで軟化した。復興基金への合意を受けたEUR圏の景気回復への楽観的な見方などから続伸し、1.16台前半まで上伸した。独8月消費者信頼感指数が予想以上に改善したことも相場をサポートした。週末24日もEURは続伸。フランス、ドイツ、ユーロ圏の7月PMIが軒並み予想を上回ったことなども相場を後押しし、一時高値1.1658を更新。高値圏にて取引を終えた。

今週もユーロ/ドル相場は続伸すると予想。背景は、ユーロ/ドル相場のチャートを見ると、相場が上抜けたように見えること、またドル・インデックスも下抜けした可能性があり、ユーロ買いに加えてドル売りの圧力がユーロ相場の上昇を後押しすることができそうな事だ。リスクはユーロ復興基金に係るネガティブニュースと米FOMCにて予想外の強力な緩和策が示されること。復興基金の実現化については時間がかかりそうであることはコンセンサスであるため、ユーロ/ドルが下押しされても影響は限定的と思料。但し、FOMCでの追加刺激策はドル売りトレンドを一服させる可能性が高く、ユーロ/ドルの上昇に歯止めをかける一因となる可能性が高いと考えている。また、ユーロ/円については、ドル/円がつかえ安となっていることからマイルドな上昇となっているが、ドル/円相場が反転上昇となれば、ユーロ/円相場が大きく上抜ける事になる。但し、日本では新型コロナウイルス感染が拡大しておりドル円相場の反転上昇は非現実的かもしれない。

### (3) 先週までの相場の推移

先週(7/20~7/24)の値動き: (対ドル) 安値 1.1400 高値 1.1658 終値 1.1655  
(対円) 安値 122.27 高値 124.28 終値 123.70



(資料)ブルームバーグ

### 3. 英ポンド

(1) 今週の予想レンジ: 1.2700 ~ 1.3000 134.70 ~ 137.50 円

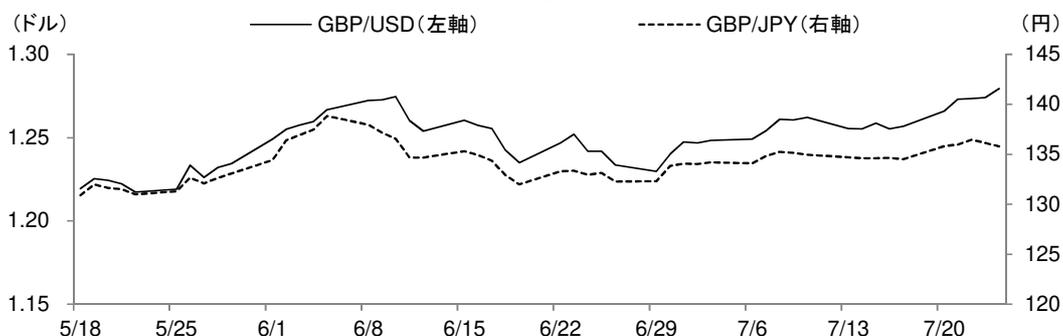
#### (2) ポイント【先週までの回顧と今週の見通し】

先週の英ポンド相場は、対ドルでは上昇し高値圏でのクローズ。一方、対円では上昇後、週末にかけて上げ幅を削り、対ユーロでは上に往って来いの展開。週初20日、対ドルで1.25台半ば、対円で134円台半ばレベルでオープン。EU復興基金合意に関するヘッドラインが交錯する中、新型コロナウイルスのワクチン開発で良好な結果が得られたとの報道を受けリスクアセットが上昇する展開に英ポンドは対ドル、対円ともに上昇。翌21日、EU首脳会合は開催5日目にして、補助金390BNを含む総額750BNの経済再建策を合意。ユーロはセルザファクトの動きで緩む場面も見られたが、英ポンドは堅調な推移が続き、対ドルで1.27を超え、対円でも136円台半ばまで続伸。翌22日、米国が中国に対しテキサス州ヒューストンの総領事館の閉鎖を命じたとの報道で、リスクオフの動きが強まり対ドルで1.2650割れ、対円で135円台半ばまで下落したが、一時的な動きですぐに反発。この間、EUとの通商交渉を巡っては、「英国はEUと合意できない前提で作業、企業に準備要請」と報じられており、英ポンドの上値を抑える一因となった。23日、この週の通商協定交渉は終了し、双方が合意には程遠いとの見方を示す一方、意見の分かれる主要分野で妥協点を示そうとしたとの報道もあり、交渉の進展は依然不透明な状況。加えて、米新規失業保険申請件数が3月以来の増加となると、マーケットのセンチメントは悪化。英ポンドはロンドン時間こそ上値重く推移したものの、徐々にドル売りの動きへとシフトし、週の高値圏へ。24日は、米中関係の悪化を背景としたリスクオフの地合いの中、アジア時間からクロス円の売りが強まりポンド円は一時135円割れまで下落。一方、この日発表された英6月小売売上高、7月PMI速報値はともに強い数字となったこともサポートし、対ドルでは底堅い動きが継続。ニューヨーク時間には対ドルでは1.2803の高値を示現し、同水準の高値圏で越週した。

今週の英ポンド相場は底堅い展開を予想。先週は、EU復興基金合意を受けたユーロの上昇が牽引する形で、対主要通貨ではドル全面安の展開。週後半は、米中関係の悪化が意識されAUD等の通貨は前半の上げ幅を削る動きとなったが、欧州通貨は堅調さが維持され、ユーロ、英ポンドともに対ドルで高値圏でのクローズとなった。先週の英経済指標を振り返ると、小売売上高は予想を大きく上振れ、ロックダウン前のレベルをほぼ回復。PMIを見ても、ユーロ圏同様にサービス業の改善が寄与し良好な数字となっており、6月からの段階的なロックダウン緩和、経済対策を受けた英景気回復期待が意識される。一方で、米経済指標は引き続き芳しくなく、足元の米中関係の悪化も相まって、米欧の経済回復の見通しに係るコントラストは鮮明になった格好。また、EUとの通商協定交渉を巡っては、公式発言では合意には程遠いとしながらも、交渉は9月まで続く見通しで、マーケットは既に交渉の難航を織り込んでおり、短期的な相場の材料にはなりづらいか。テクニカルには、200日移動平均をクリアに上回ってサポートされていることに加え、ブレイクアウトの先行き不透明さも市場のポジションもロングになりきれていないことに鑑みれば、上昇ペースは緩やかながら、英ポンド相場は引き続き底堅い展開となろう。

#### (3) 先週までの相場の推移

先週(7/20~7/24)の値動き: (対ドル) 安値 1.2519 高値 1.2803 終値 1.2795  
(対円) 安値 134.35 高値 136.63 終値 135.79



(資料)ブルームバーグ

#### 4. 豪ドル

アジア・オセアニア資金部 シドニー室 安藤 愛

(1) 今週の予想レンジ: 0.6970 ~ 0.7220 74.00 ~ 76.50 円

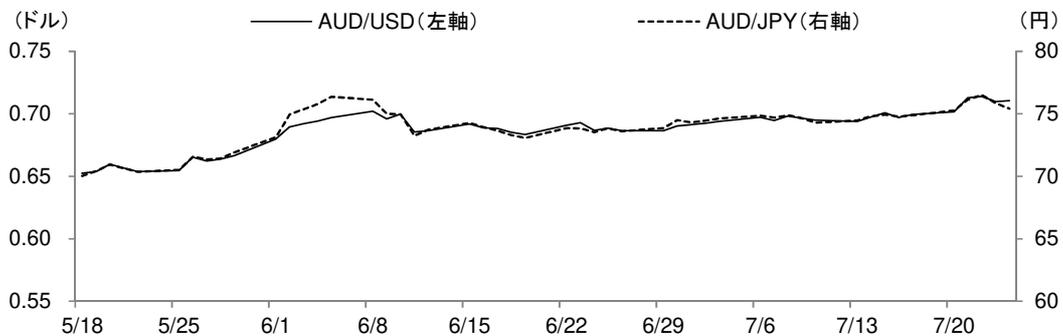
##### (2) ポイント【先週までの回顧と今週の見通し】

先週の豪ドル相場は0.70を上抜け。週末かけて行われたEU首脳会議で復興基金を巡る協議が難航していたことから、20日寄り付き0.6986まで下落してギャップオープン。その後、東京仲値発表にかけて本邦勢による5、10日絡みのドル買いが持ち込まれると豪ドルは0.6970台まで下落。欧米時間に入り、オックスフォード大学と英製薬大手が手掛けるワクチン候補が抗体生成とのヘッドラインを受けて0.70を上抜けた。EU首脳会談が復興基金で新妥協案とのヘッドラインもサポート材料となり、0.7017まで上昇して引けた。21日、前日からのリスクオンの流れを引き継ぎ株価が上昇する中、終日を通して買いが優勢の展開となり0.71台半ばまで上昇。ロウRBA総裁が講演で現在の豪ドルはファンダメンタルズと合致しており押し下げ介入する必要はないと発言したことも豪ドルのサポート材料となった。22日、米政府が在ヒューストン中国領事館に72時間以内の閉鎖を要請したことが伝わるとリスクオフの米ドル買いが強まり、豪ドルは小幅下落したがその後すぐに値を戻し、もみ合い。23日、米新規失業保険申請件数が前週比で増加に転じたことを受けて株価が下げ幅を拡大すると、豪ドルも売りが膨らみ一時0.7091まで下落した。24日、中国政府が米国に対し四川省成都の総領事館を閉鎖するよう要求したことが伝わるとリスク回避の動きから豪ドルは一時0.7060台まで下落した。

今週の豪ドルは上値の重い展開を予想する。先週はEU首脳会談で復興基金の協議がまとまったことや、コロナワクチンに関するポジティブな報道をきっかけにリスク地合いが改善し、1月以来の抵抗線0.70を抜けて上値維持に成功。しかし米中総領事館閉鎖の応酬など米中摩擦が一段と緊迫する中で、一段と上値を狙う勢いは失速した。週末発表された豪州国内のコロナ新規感染者が400人を超え、新規感染者数が再び増加していることもリスク地合いを悪化させている。今週は29日豪4～6月期CPI、米FOMC、30日米4～6月期GDP速報値など、注目イベントが多い。FOMCでは緩和的な金融政策の維持を決定する公算ながら、ゼロ金利金利解除の条件を巡る議論に注目が集まる。

##### (3) 先週までの相場の推移

先週(7/20～7/24)の値動き: (対ドル) 安値 0.6973 高値 0.7184 終値 0.7106  
(対円) 安値 74.82 高値 76.87 終値 75.41



(資料)ブルームバーグ

当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。ここに記載された内容は事前連絡なしに変更されることもあります。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願い申し上げます。また、当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず無断で引用または複製することを禁じます。なお、当行は本情報を無償でのみ提供しております。当行からの無償の情報提供を望まれない場合、配信停止を希望する旨をお申し出ください。